

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

東大寺寺子屋 活動報告書

数学教育専修 1 回生 奥村 壮之佑

1. 実施日 2023 年 7 月 29 日(土)・30 日(日)

2. 場所 東大寺

3. 参加者 社会科教育専修 4 回生 吉岩 尚樹 英語教育専修 3 回生 苗代 昇妥
国語教育専修 2 回生 田中 愛花 国語教育専修 2 回生 吉岡 優来
社会科教育専修 1 回生 金川 恵人 社会科教育専修 1 回生 田中 友貴
数学教育専修 1 回生 奥村 壮之佑 数学教育専修 1 回生 小田 彪雅

4. 活動の概要

2023 年 7 月 29 日・30 日に東大寺にて、東大寺寺子屋が行われ、その支援を目的として本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、参加者の誘導とレクリエーション、フィールドワーク、食事の配膳、就寝準備などである。

5. 参加学生の学び・感想

私が今回の東大寺寺子屋で学んだことは、児童生徒とのコミュニケーションの大切さだ。今回のようにフィールドワークが35度を上回る酷暑の中であれば、私たちが的確な指示を出していても、児童生徒の熱中症のリスクは非常に高い。実際、体調の確認は逐一していたがトイレに行きたいと言い出せず、体力的に限界に近い状態で無理をしていた児童が見受けられた。児童生徒とのコミュニケーションが上手くいかず、心を開いてくれていなかったら企画自体達成が難しかっただろう。以上のことから私は児童生徒とのコミュニケーションが大切だと感じた。

(社会科教育専修 4 回生 吉岩 尚樹)

今回の活動で学んだことは、様々な人とコミュニケーションを取ることの大切さである。気温が高い中の活動だったため、子どもたちの体調を気遣う声掛けがなかった。子どもたちの学習の場面では、問いかけ方によって子どもたちの意見を引き出せるかそうでないかに大きな差が出ることが分かった。また、保護者の方々には、子どもたちの健康状態や活動の様子を伝えるようにした。これにより、活動終了後の子どもたちの健康を守ることができ、保護者の方に活動の様子を知ってもらうことができた。今回の学びを今後の活動にも生かしていきたい。

(英語教育専修 3 回生 苗代 昇妥)

私が、今回の東大寺寺子屋で学んだことは、連絡網の大切さと、子どもたちへの声かけの重要性である。体調の悪い子どもたちが出てきた時に、連絡網をしっかりと設けていたことで迅速な対応ができた。また、グループリーダーが率先して体調を気にかけて、子どもたちとコミュニケーションをとつ

たことで、「自分を見てもらえている」という安心感をもってもらえたと思う。私は今回、裏方を担当させていただいた。先生方や、先輩方の動きから色々なことを学ぶことのできるいい機会になった。

(国語教育専修 2回生 田中 愛花)

東大寺寺子屋では、質問を工夫することで、児童生徒の考えをより具体的に引き出せるということを学んだ。この活動では、様々な体験を通して、東大寺がどのように社会と繋がっているのかを考えることができた。しかし、初めは緊張をしている児童生徒から意見を聞くことは難しかった。そこで、漠然と質問するのではなく、比較して質問したり、児童生徒の発言を順序だてて考えることができるように補助をしながら質問したりすることなどを意識した。このようにすることで、活発な発言に繋がるということを学んだ。

(国語教育専修 2回生 吉岡 優来)

今回の東大寺寺子屋では、連絡網の大切さと児童生徒の安全管理の重要性を学んだ。特に1つ目は、他の班の様子や注意点を共有したことが役にたった。しかし、フィールドワークに注意を払うあまり本部からの連絡に気づけなかったなど、反省すべきこともあった。2つめについては、熱中症予防をはじめ終始気が抜けなかったが、以前より児童生徒との接し方や大人と子供の意識の違いについても学ぶことができるようになった。

(社会科教育専修 1回生 金川 恵人)

今回の寺子屋で学んだことは、児童生徒との接し方だ。円滑な行動のために、声かけをしなければいけない場面ある。しかし、直接的に助言してしまうのではなく、その子たちに寄り添って話してあげることで大切だと感じた。今回の支援を通して、児童生徒の集団行動を見守る時は、集団を見つても個人を見逃さない、という姿勢が大事だと思う。

(社会科教育専修 1回生 田中 友貴)

今回の東大寺寺子屋で学んだことは、指示通りに動くことの大切さである。指示されていない行動をしてしまうと、予定していた時間に間に合わなくなることを実感した。今までは指示を聞くまで積極的に行動できなかったが、東大寺寺子屋の支援を通して様々な方から指示を聞き的確に行動できるようになったと思う。

(数学教育専修 1回生 奥村 壮之佑)

私が今回の東大寺寺子屋支援で学んだことは、児童生徒をまとめることの難しさだ。私は3班専属の学生サポーターとして、この2日間サポートしたが、話を静かに聞くという雰囲気を作るのが非常に難しかった。しかし、児童生徒の元気さからエネルギーをもらうこともでき、東大寺寺子屋の支援に行くことができよかったですと感じた。今回うまくいかなかったこともあったが、それを活かして、今後の活動にも取り組んでいこうと思う。

(数学教育専修 1回生 小田 彪雅)